

# 2008年度入試 直前動向分析

大学入試センター試験まで残り1ヶ月半となり、今年も本格的な入試シーズンを迎えた。

来春入試では、国公立大の後期日程廃止の拡大や医学科の募集人員増加、慶應義塾大と共立薬科大の統合や、法政大、同志社大、立命館大の理工系学部再編など難関大に大きな動きがみられる。

ここでは、11月に実施した第3回全統マーク模試の志望データをもとに2008年度入試の動向を探ってみる。

## 国公立大学編

### ◆現役生志願率は上昇するも、志願者は減少 最終出願者数は54万人前後の予想

はじめに、大学入試センターより10月12日に公表された大学入試センター試験（以下「センター試験」）の志願者数を確認しておきたい。志願者数は、受付最終日時のものであるが、前年の同時点と比較すると、1万333人（2%）減の51万8千565人となっている【表1】。

18歳人口の減少にも関わらず、志願率の上昇により3年連続で増加していた高校等卒業見込者（現役生）の志願者は4年ぶりに減少した。今年も現役生志願率は上昇しているものの、現役高校生の人口減が大きく影響している。高卒生も同様に4千177人（4%）の減少となっているが、一昨年1万7千人減、昨年の9千人減に比べると減少幅は小幅になってきている。

なお、最終志願者数は例年この時点から2万人ほど増えるため、54万人前後になると予想される。

### ◆難関大と地方大の格差拡大 旧帝大の後期日程廃止の影響で周辺大は難化

ここからは第3回全統マーク模試の志望データをもとに、国公立大の志望動向をみていくことにしよう。

本模試における受験者数は、少子化により前年比94.4%となっているが、国公立大全体（前期日程）の志望者は前年比96.5%と堅調な人気を保っている。

【表2】は国公立大の志望者を難関大、都市圏大、その他の地方大

にグループを分け、それぞれの志望者数の前年比を比較したものである。前期日程をみると、難関大の志望者数は前年比97.6%、都市圏大は前年比96.8%と国公立大全体の前年比を上回っているが、地方大は前年比95.4%となっている。地方大を避け、難関大や都市圏大を志望する傾向は今春入試も表れており、難関大と地方大の人気格差は拡大しているようだ。

一方、後期日程に目を移すと、難関大の前年比が84.4%と減少している。これは昨年に続き、2008年度入試でも**東北大、東京大、名古屋大**で後期日程廃止学部が拡大するためである。この影響を受け、後期日程廃止大から都市圏大・地方大に志望者が流れており、志望者増や併願パターンの変化といった動きがみられる。【表3】の大学は本番入試においても志願者が増える可能性があるため、注意が必要である。

【グラフ4】は旧帝大をはじめとする難関大について志望者の昨今を比較したものである。

**東京医科歯科大**は2008年度入試より、前期日程のセンター試験科目数が5教科6科目→5教科7科目に変更される。2次で理科の要らない医-保健-看護、歯-口腔保健は、この影響で前年比70.5%と大幅に志望者を減らしている。一方、2次で理科2科目が必要な医-医・保健-検査技術、歯-歯でも前年比83.7%と減っている。これは昨年模試で志望者が大幅に増加した反動と後述する系統の不人気によるものと考えられる。

**大阪外国語大**との統合により注目されている**大阪大**の外国語学部（前期）は、センターが5教科5科目→5（6）教科7科目、2次が「外・小」→「外・国・（数・地歴→1）」の3教科となる。この

【表1】 高卒者数とセンター試験志願者数推移

	高卒者数	受付最終日志願者数			
		全体	現役	(志願率)	高卒等
2007年度	1,147,984	528,898	424,579	37.0%	104,319
2008年度	1,096,575	518,565	418,423	38.2%	100,142

※高卒者数は学校基本調査（速報）より、2008年度の高卒者数は河合塾推計  
※志願者数は受付最終日17時現在の数値

【表2】 国公立大志望動向：大学グループ別（第3回全統マーク模試より）

	前期			後期			中期		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
難関大	52,907	51,646	97.6%	20,453	17,257	84.4%	-	-	-
都市圏大	48,281	46,755	96.8%	23,905	23,685	99.1%	5,633	5,406	96.0%
その他	75,870	72,391	95.4%	44,687	42,557	95.2%	7,643	6,584	86.1%

難関大は、旧帝大+東医歯大+東工大+一橋大+神戸大+広島大  
都市圏大は、首都圏（埼・千・東・神）+愛知+近畿圏（京・阪・兵）の大学（難関大を除く）

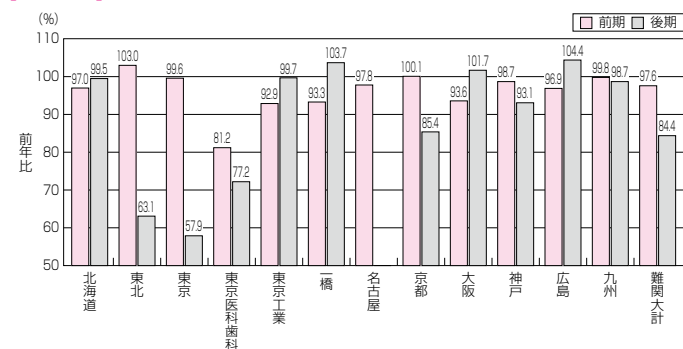
影響で、前年比は57.6%と大幅に減少している。しかし、志望者の6教科7科目（文系型）の平均偏差値は53.6→55.9と上昇しており、成績上位者層が集まってきている様子が見える。

募集人員を後期から前期日程へシフトする**東京大**では、前期日程は前年比99.6%と昨年並みである。過去3年の志望者数は、6,102人→6,847人→6,823人となっており、18歳人口の減少や隔年現象の影響を受けることなく、安定した高い人気を集めている。募集人員増により東京大にチャレンジしやすくなったことが、**東京工業大・一橋大**の志望者数減少に少なからず影響を与えているだろう。逆に文一～理二が一括募集となり、募集人員を314名→100名に減らす後期日程では、志望者数が大幅に減少している。志望者の多くが東京工業大、一橋大の後期日程へ流れたものと思われ、この2大学では成績上位者層が増え、難化が予想される。また、**大阪大**の後期日程の志望者増も同様に東京大や名古屋大の影響によるものと考えられる。

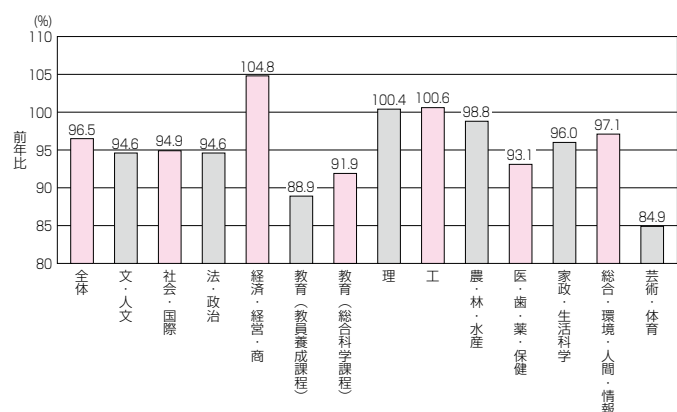
【表3】後期日程で志望者の増加が予想される大学（第3回全統マーク模試より）

大学名	志望者数		
	昨年	今年	前年比
筑波	1,078	1,193	110.7%
埼玉	2,301	2,331	101.3%
千葉	2,018	2,167	107.4%
東京工業	695	693	99.7%
一橋	1,296	1,344	103.7%
名古屋工業	1,321	1,406	106.4%
名古屋市立	2,503	2,593	103.6%
大阪	3,560	3,622	101.7%

【グラフ4】国立難関大の志望動向（第3回全統マーク模試より）



【グラフ5】国公立大(前期) 学部・系統別志望動向(第3回全統マーク模試より)



## ◆理工学系は人気回復 教育学部部の低迷続く

続いて学部系統別の志望動向を中心となる前期日程で見ている【グラフ5・表6】。

文系では、「経済・経営・商」学系が前年比104.8%と昨年の志望者数を超え、近年の人気を維持している。2次試験を課さない3教科のセンター枠を新規導入した**埼玉大**は、私大型生の吸収もあり、前年比151.1%と大幅に増加している。**東北大**、**京大**、**大阪大**、**岡山大**でも前年の2割増しとなる志望者を集めた。これらの大学は「法・政治」学系の志望者が減っており、「法・政治」学系から「経済・経営・商」学系への流出がみとれる。「文・人文」「社会・国際」「法・政治」学系は前年比94%台となり、国公立大全体よりはやや減となった。一方、減少が目立っているのが、教育学部部の「教員養成課程」「総合科学課程」である。「教員養成課程」が前年比88.9%、「総合科学課程」が同91.9%と、両系統とも志望者を大幅に減らしている。さらに詳細をみていくと、「教員養成課程」では、「養護教諭」で100%、「特別支援学校」が95.9%と比較的志望者を集めているものの、近年人気の続いていた「幼稚園」が91.1%、「学校-教科」が89.0%、「学校-芸術・体育」が88.0%と減少が目立っている。「総合科学課程」でも「情報」「心理・臨床」「国際・言語・文化」が国公立大全体の前年比を上回る一方で、「スポーツ」が79.7%、「地域・社会・生活」が85.9%と分野による人気・不人気の差が表れている。

理系では、「工」学系と「理」学系が前年並みの志望者を集めている。受験生の理工系離れにより、志望者が減少傾向にあった両系

【表6】詳細系統別志望動向の抜粋（第3回全統マーク模試より）

学部系統	詳細系統	前期日程		
		昨年	今年	前年比
教育 (教員養成課程)	学校-教科	11,197	9,963	89.0%
	学校-芸術・体育	1,799	1,584	88.0%
	幼稚園	1,179	1,074	91.1%
	養護教諭	580	580	100.0%
	特別支援学校	651	624	95.9%
	その他教員養成	2,188	1,823	83.3%
教育 (総合科学課程)	スポーツ	1,026	818	79.7%
	芸術・デザイン	696	654	94.0%
	情報	321	358	111.5%
	国際・言語・文化	1,068	1,036	97.0%
	心理・臨床	459	450	98.0%
	地域・社会・生活	877	753	85.9%
	自然・環境	582	553	95.0%
理	理学系一括	2,348	2,256	96.1%
	数学・数理情報	1,344	1,301	96.8%
	物理	931	1,017	109.2%
	化学	1,463	1,519	103.8%
	生物	1,413	1,376	97.4%
	地学・他	802	865	107.9%
工	工学系一括	2,891	2,917	100.9%
	機械・航空	9,963	9,702	97.4%
	電気・電子	4,057	4,442	109.5%
	通信・情報	6,595	6,237	94.6%
	建築	3,386	3,390	100.1%
	土木・環境	2,620	2,606	99.5%
	応用化学	2,920	3,341	114.4%
	材料・物質・資源	2,601	2,894	111.3%
	生物工	959	939	97.9%
	経営・管理・船舶・他	2,155	1,904	88.4%
	医・歯・薬・保健	医	11,449	10,586
歯		1,045	881	84.3%
薬		3,417	3,160	92.5%
看護		8,117	7,856	96.8%
医療技術		5,896	5,377	91.2%
	保健・福祉	255	231	90.6%

統だが、今春入試から難関大を中心として人気回復しており、本模試で見る限り、国公立大の理工系人気は完全に回復したとみてい  
いだろう。詳細系統別にみると、「応用化学」「材料・物質・資源」  
といった化学系や「電気・電子」に人気が集まっている。

志望者を理・工学系に奪われる形で減らしているのが「医・歯・薬・  
保健」系で、前年比93.1%と国公立大平均を下回る結果となった。  
医療系は就職難による資格人気もあり、長年にわたって志望者を増  
やし続けてきたが、昨年模試で減少に転じ、2年連続で前年を下  
回った。とくに「歯」が84.3%、「医療技術」が91.2%と減少している。  
また、近年人気が高騰していた「医」も92.5%とやや落ち着きを見  
せている。医学科が最難関入試であることに変わりはないが、来年  
度入試では医師不足対策による入学定員の増員が予定されており、  
倍率的には緩和が期待できそうだ。

その他の学系では、「芸術・体育」学系の志望者の減少が目立っ  
ている。

最後に改組・再編を予定している大学の状況をおさえておく。

8学部25学科（課程）から3学域16学類へと大規模な学部再編を

行う**金沢大**は、本模試の前期志望者数が2,847人→2,723人（前年比  
95.6%）と、ほぼ国公立大全体並みとなっている。個別の学類をみ  
ていくと、人間社会-人文・学校教育・地域創造、理工-数物科学、  
医薬保健-薬・創薬科学・保健-検査技術科学などで1割以上志望  
者が減少し、ランクダウンしている。大学全体としては易化に向か  
うと予想される。

今春新設した経済学部内の観光学科を学部に昇格させた**和歌山大**  
の観光学部は、志望者を44人→101人（前年比229.6%）と大幅に増  
やしている。

**信州大**の繊維学部では、7学科を9課程に改組し、さらに創造工  
学系、化学・材料系、応用生物学系の3つの「系による募集」に変  
わる。募集区分が大きくくりになると志望者は減る傾向がみられ、今  
度も201人→184人（前年比91.5%）と減少した。

以上、国公立大の動向を見てきた。国公立大の志望動向はセン  
ター試験の平均点次第で例年大きく変わるので、センター試験後の  
動きについても十分注意したい。

# 私立大学編

## ◆拡大するセンター利用方式

第3回全統マーク模試での私立大全体の志望者数は前年比94.7%  
と模試受験者数の減少率（前年比94.4%）とほぼ同じであった。方  
式別では一般方式が92.8%、センター利用方式が99.6%と一般方式  
での志望者減少が目立つ。センター利用方式は年々拡大しており、  
2008年度は**青山学院大**（文-フランス文、史）、**日本大**（生物資源  
科学）、**立命館大**（映像）などで新たに導入されるほか、「センター  
後期」や大学独自試験と組み合わせる「併用タイプ」を導入するこ  
とで実施回数を増やす大学が増加している。後期日程を廃止する国  
公立大が増える中で、センター方式や併用方式を滑り止めに考える  
受験生が増えているようだ。これらの受験チャンスの拡大が志望者  
増加につながっているものと思われる。

## ◆二極化はさらに拡大

### 難関大で相次ぐ理工系学部の改組・再編

一般入試の志望者数を志望校の入試難度別にみると、ボーダーラ  
インが偏差値55.0以上の大学群では前年比97.0%、45.0未満では  
84.7%となっている。一般入試の志望者数減少を考慮すると、昨年  
に引き続き二極化はさらに進んでいると言える【表7】。

一方で、偏差値72.5以上の超難関大では志望者が減少している。  
難関大や有名大を志望するものの、厳しい入試が予想される超難関  
大は敬遠するというのが今回の傾向のようだ。

【表8】は主要大の志望動向をまとめたものである。首都圏では

学習院大、上智大、専修大、中央大、東京理科大、法政大、明治  
大、立教大、中部圏では中京大、名城大、近畿圏では同志社大、関  
西大、関西学院大が志望者を増加させており、都市圏の大学の根強  
い人気うかがえる。

2008年度入試の特徴のひとつとして難関大における理工系学部の  
学部・学科の改編が挙げられる。

【表7】私立大 難度別の志望動向（第3回全統マーク模試より）

ボーダー 偏差値帯	志望者数（人）		前年比
	昨年	今年	
72.5～	5,010	4,150	82.8%
70.0～	18,670	17,252	92.4%
67.5～	22,223	19,547	88.0%
65.0～	53,926	50,479	93.6%
62.5～	42,283	38,836	91.8%
60.0～	72,760	71,839	98.7%
57.5～	105,027	106,179	101.1%
55.0～	73,395	73,043	99.5%
52.5～	92,307	87,999	95.3%
50.0～	98,814	91,783	92.9%
47.5～	79,158	71,863	90.8%
45.0～	55,313	48,306	87.3%
42.5～	51,363	47,251	92.0%
40.0～	35,514	29,456	82.9%
37.5～	27,681	23,189	83.8%
35.0～	38,067	30,597	80.4%
BF（ボーダーフリー）	15,243	11,693	76.7%
ボーダーなし	1,483	1,193	80.4%
全私立大	888,237	824,655	92.8%

※ボーダー偏差値帯は前年実態ベース（ないものは予想難度を使用）  
※数値は一般方式のみ集計

法政大は工学部を「理工学部」「生命科学部」の2学部再編し、今春新設した「デザイン工学部」と合わせて3学部体制とする。理工学部では前年比130.2%、生命科学部では同178.1%、デザイン工学部では同113.0%と多くの志望者を集めており、大学全体で前年比114.1%の増加となっている。上智大(理工)では5学科を3学科に改組するとともに、学科ごとに行っていた入試を全学科共通の入試日・科目で行うなど変化が大きい。とくに物質生命理工学科ではすでに募集人員の10倍を超える志望者を集めており、来春入試における注目の学科と言えるだろう。

近畿圏では京都産業大が理・工学部を「理学部」「工学部」「コンピュータ理工学部」に、同志社大が工学部を「理工学部」「生命医科学部」に、立命館大が理工・情報理工学部を「理工学部」「情報理工学部」「生命科学部」に再編する。これらの学部の中では同志社大(生命医科学)、立命館大(生命科学)といった生命・医療分野が高い人気を示している。

難関大での受験機会の拡大も2008年度入試の特徴のひとつである。来春入試から学部統一試験の実施学部を拡大する立教大(理)は堅調に志望者を集めている。また、法・総合政策・商学部で地方試験会場を新たに設置する中央大は前年比114.3%と大幅な志望者増加となった。今春入試で「全学部日程」を導入した法政大と明治大が多く志願者を集めたことから、難関大の受験機会拡大に伴う志願動向の変化が非常に注目される。

【表8】全国主要私立大 志望動向(第3回全統マーク模試より)

大学	大学全体 志望者			一般方式 志望者			センター方式 志望者		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
北星学園	3,371	3,401	100.9%	1,892	1,949	103.0%	1,479	1,452	98.2%
北海学園	5,358	5,490	102.5%	3,208	3,390	105.7%	2,150	2,100	97.7%
東北学院	6,216	6,315	101.6%	4,253	4,409	103.7%	1,963	1,906	97.1%
青山学院	27,478	25,746	93.7%	21,797	19,603	89.9%	5,681	6,143	108.1%
学習院	8,630	8,707	100.9%	8,630	8,707	100.9%			
慶應義塾	27,429	27,127	98.9%	23,587	21,924	92.9%	3,842	5,203	135.4%
駒澤	12,318	11,586	94.1%	8,685	8,311	95.7%	3,633	3,275	90.1%
上智	14,686	14,763	100.5%	14,686	14,763	100.5%			
成蹊	11,762	10,677	90.8%	8,456	8,004	94.7%	3,306	2,673	80.9%
成城	7,209	7,220	100.2%	5,299	5,410	102.1%	1,910	1,810	94.8%
専修	11,181	11,933	106.7%	8,038	8,483	105.5%	3,143	3,450	109.8%
中央	27,073	30,952	114.3%	17,978	19,411	108.0%	9,095	11,541	126.9%
東京理科	22,478	22,898	101.9%	11,844	9,925	83.8%	10,634	12,973	122.0%
東洋	21,204	20,279	95.6%	15,767	15,006	95.2%	5,437	5,273	97.0%
日本	39,305	37,404	95.2%	30,819	27,321	88.6%	8,486	10,083	118.8%
法政	35,143	40,114	114.1%	25,894	30,281	116.9%	9,249	9,833	106.3%
明治	49,761	51,959	104.4%	36,737	38,619	105.1%	13,024	13,340	102.4%
立教	31,210	32,176	103.1%	21,220	22,008	103.7%	9,990	10,168	101.8%
早稲田	62,204	57,213	92.0%	47,872	44,331	92.6%	14,332	12,882	89.9%
愛知	10,267	9,770	95.2%	8,373	7,469	89.2%	1,894	2,301	121.5%
中京	17,386	17,744	102.1%	12,894	12,980	100.7%	4,492	4,764	106.1%
南山	19,176	18,975	99.0%	13,741	13,619	99.1%	5,435	5,356	98.5%
名城	19,473	20,452	105.0%	15,331	15,581	101.6%	4,142	4,871	117.6%
京都産業	9,056	8,489	93.7%	7,485	6,944	92.8%	1,571	1,545	98.3%
同志社	28,944	29,864	103.2%	19,792	20,304	102.6%	9,152	9,560	104.5%
立命館	42,375	41,328	97.5%	24,748	23,141	93.5%	17,627	18,187	103.2%
龍谷	15,000	13,694	91.3%	12,150	10,814	89.0%	2,850	2,880	101.1%
関西	33,211	33,942	102.2%	24,332	24,311	99.9%	8,879	9,631	108.5%
近畿	22,190	21,034	94.8%	16,824	15,867	94.3%	5,366	5,167	96.3%
関西学院	19,831	21,153	106.7%	14,292	15,009	105.0%	5,539	6,144	110.9%
甲南	7,592	7,410	97.6%	6,140	5,784	94.2%	1,452	1,626	112.0%
広島修道	3,527	3,146	89.2%	2,580	2,230	86.4%	947	916	96.7%
西南学院	5,154	5,123	99.4%	3,672	3,616	98.5%	1,482	1,507	101.7%
福岡	11,847	11,513	97.2%	8,834	8,384	94.9%	3,013	3,129	103.8%

## ◆「経済・経営・商」学系の人気は堅調 医療、教育など資格系学科の人気に翳り

次に学部・系統別の動向をみてみよう【グラフ9】。

文系では国公立大と同様、「経済・経営・商」学系が志望者を集めている。なかでも経済や商・会計学系の人気が高く、景気回復による系統人気がかがえる。慶應義塾大(経済)は志望者が前年比88.5%と減少しているものの、成績上位者は前年比122.6%と増えており、厳しい入試になるものと思われる。

また、今春入試で大幅に志願者を増やした「法・政治」学系は、昨年の反動から前年比92.0%と志望者を大きく減らしている。

理系では、「理」学系が前年比98.2%と全系統で最も高い数字となった。「物理」「化学」「生物」に多くの志望者が集まっており、法政大、立教大、関西大などが高い人気となっている。

「医・歯・薬・保健」学系は、前年比94.3%の減少となった。詳細系統別にみると、「歯」79.2%、「医療技術」89.8%、「医」93.8%と国公立大と同様、志望者減少が目立つ。来春も大学の新設が相次ぐ「看護」は前年比95.6%と人気を保っている。

薬剤師養成課程が6年制化されて以来、受験生に敬遠されてきた「薬」は前年比100.1%と前年並みの志望者を集めている。近年、新設の相次ぐ薬学部だが、2008年も立命館大と鈴鹿医療科学大の2大学で新設される。また、慶應義塾大は共立薬科大との統合により薬学部を設置する。難関大の新設学部に対する受験生の関心は非常に高く、慶應義塾大は募集人員170名に対し志望者3,497名、立命館大は募集人員93名に対し志望者1,226名と多くの志望者を集めている。一方、新設3大学を除いた既設大学の合計志望者数は前年比91.0%と減少している。

また、ここ数年人気の続いた教育・児童系は、人気にやや翳りが見え始めている。2008年度は聖徳大(児童)、帝京科学大(こども)、皇學館大(教育)など数多くの学部・学科が新設され、志望者は分散して全体的には易化するものと思われる。ただし、早稲田大(教育-教育-初等教育)は募集人員25名に対し591名もの志望者を集めており、今後の動向に注意が必要だ。

2008年度は18歳人口の減少幅が大きく、これに伴って、大学志願者数も減少し、入試全体が易化に向かうことは間違いないだろう。しかし、難関大学や人気の学部系統では志望者が集中し、依然として厳しい入試が予想される。受験生には最後の追い込み時期に油断することなく、十分な準備をして本番に臨んでほしい。

【グラフ9】私立大 学部・系統別志望動向(第3回全統マーク模試より)

